

里川集落における住民の意識と河川の利用形態 —里川集落の空間的構造及び人と河川との関わり方 その6—

準会員○江頭 正成^{*1} 同 坂田 有香^{*1} 正会員 岩田 和哉^{*2} 同 中西 章敦^{*3}
同 姫野 由香^{*4} 同 小林 祐司^{*5} 同 佐藤 誠治^{*6}

7. 都市計画 — 99. その他 都市計画
里川集落, アンケート, ヒアリング, 河川環境

1. はじめに

前稿までに、現地調査や分析、類型化について述べた。本稿では、住民の河川に対する意識と利用形態をアンケートやヒアリングを行い把握することとする。

ここでは柴北上、黒松東、黒松西の3集落についてアンケートとヒアリングの調査を行った。これらの集落は前稿で行ったクラスター分析において柴北上でアクセス性が低く、黒松東と黒松西でアクセス性が高いという結果が得られた(前稿図2 クラスターマップ参照)ため、アクセス性が異なるグループでどのように差があるのか、また同じグループの中でどのような類似点があるのかを示していく。

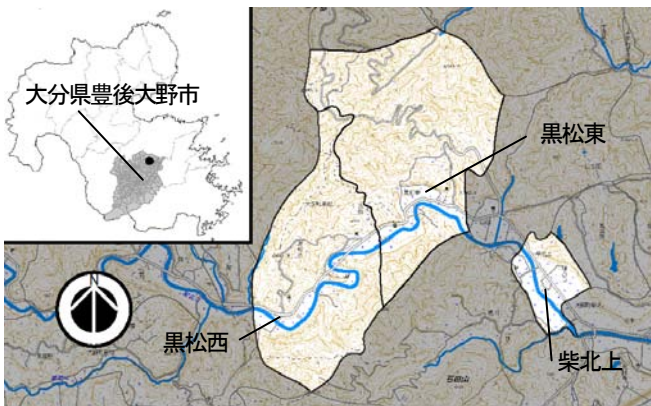


図1 柴北上, 黒松東, 黒松西の位置

2. アンケート調査

2-1 アンケート調査の目的

アンケート調査は、「河川の利用」「河川の維持管理」「河川への意識」を知ることにより、住民と河川との関わり方や、河川に対する考えや想いを把握し、さらに各項目において「現在」と「過去」を比較することで、住民と河川との関わり方の変化を明らかにすることを目的とする。

アンケート項目の設定:【質問1】「記入者について」



図2 柴北上集落

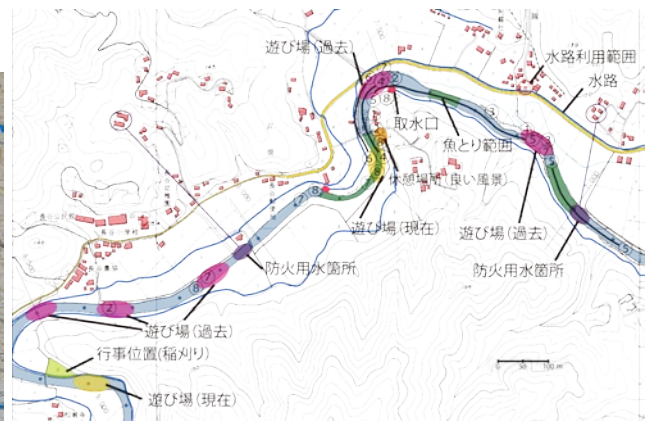


図3 黒松東集落



図4 黒松西集落

【質問2】「河川内の生物について」【質問3】「住民の河川に対する思いや意識について」【質問4】「河川の管理について」【質問5】「住民の河川利用について」【質問6】「河川環境について」。

ただし本稿では集落ごとの河川に対する意識や管理、利用に関する比較を主体とし、【質問2】「河川内の生物について」は割愛する。

2-2 アンケート調査対象地区の属性

今回、大分県豊後大野市大飼町の、大野川水系柴北上川に隣接する柴北上、黒松東、黒松西の3集落を対象とした。柴北上16人、黒松東27人、黒松西35人、計78人の回答を得た。アンケートの配布数、回収数及び回収率を表1、回答者の属性を表2および図5に示す。

表1 アンケートの配布数、回収数及び回収率

集落名	配布数(部)	回収数(部)	回収率(%)
柴北上	42	16	38.1
黒松東	58	27	46.6
黒松西	43	35	81.4
全体	133	78	58.6

表2 回答者の属性

記入者について(人)	性別		職業						居住年数										
	男性	女性	無回答	会社員	農業・林業従事者	学生	主婦	パート・アルバイト	無回答	5年未満	5-10年	11-20年	21-30年	31-40年	41-50年	51-60年	61年以上	無回答	
柴北上	7	8	1	3	1	1	3	6	0	1	1	5	4	2	2	1	0	0	1
黒松東	14	13	0	2	1	6	4	3	2	2	7	5	3	3	4	3	2	6	1
黒松西	19	16	0	8	0	7	1	6	2	1	10	1	8	5	5	5	1	10	0

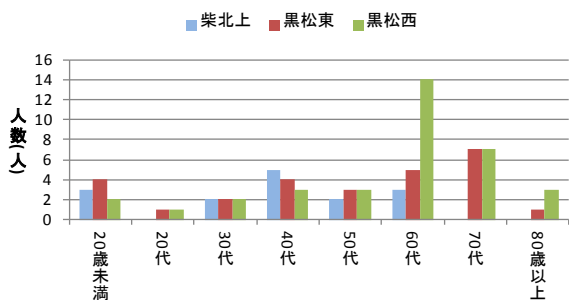


図5 回答者の年齢別・集落別の人数

2-3 アンケートの分析

【質問3】「住民の河川に対する思いや意識について」
 【質問3-1】では、「①お気に入りの場所がある」「②お気に入りの風景がある」「③川での思い出がある」の3つの項目についてそれぞれ「はい」または「いいえ」のどちらか1つを記入してもらった。【質問3-1】に対する「はい」の回答率を図6に示す。

【質問3-2】では、図7に示す12の項目についてそれぞれ「はい」(5点)「どちらかといえばはい」(4点)「どちらでもない」(3点)「どちらかといえばいいえ」(2点)「いいえ」(1点)の5段階評価で記入してもらった。図7は【質問3-2】に対するそれぞれの回答の加重平均値を入れたグラフを示している。また、【質問3-2】で「はい」および「どちらかといえばはい」と答えた人数の割合を表3に示す。

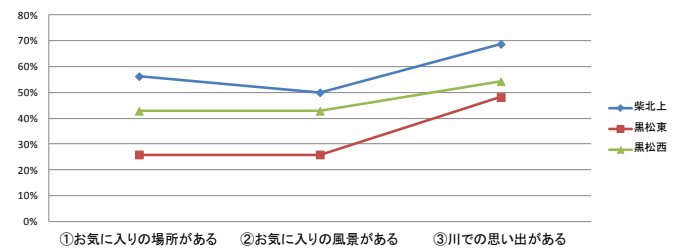


図6 【質問3-1】に対する「はい」の回答率

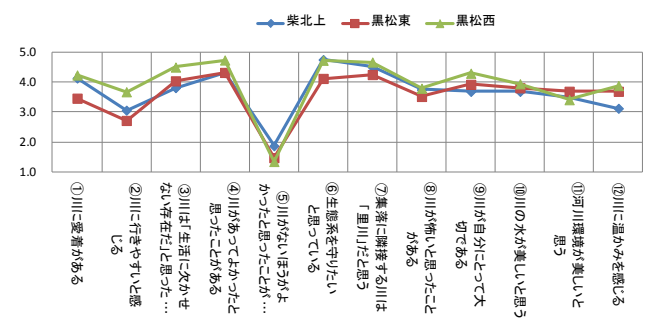


図7 【質問3-2】回答の平均値

表3 【質問3-2】「はい」または「どちらかといえばはい」と答えた人数の割合

「はい」「どちらかといえばはい」と答えた人数の割合(%)	質問3-2											
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
柴北上(16人)	75	44	69	88	19	94	88	69	63	63	63	31
黒松東(27人)	44	33	67	81	3.7	70	70	56	63	63	59	56
黒松西(35人)	69	57	80	91	5.7	89	89	63	71	74	46	69

【質問3-1】の「①お気に入りの場所がある」「②お気に入りの風景がある」では、3集落とも「はい」と答えた割合が60%未満しかなく、その中でも黒松東に関してはどちらも30%未満と低い値を示している。

【質問3-2】の「⑦集落に隣接する川は『里川』だと思つたこと」に関して図7をみると黒松西が4.7と最も高く、黒松東が4.2と最も低い平均値をとっており、「はい」または「どちらかといえばはい」と答えた人数の割合を見ると黒松西が89%、黒松東が70%と差は約20%であった。また「①川に愛着がある」に関しては表3をみると柴北上が75%と最も高い数値を示し、黒松東は44%と低い数値を示した。それに対し「⑫川に温か

みを感じる」では柴北上が31%と最も低い数値をとっており、意味合いの近い項目で大きな差を示した。

「③川は『生活に欠かせない存在だ』と思ったことがある」「⑨川が自分にとって大切であると思ったことがある」「⑩川の水が美しいと思う」の3つの項目においては柴北上と黒松東がほぼ同等に黒松西よりも低い数値を示している。

「⑤川がないほうがよかったと思ったことがある」では、黒松東と黒松西では6%以下となっているが、柴北上では19%と高い数値を示した。これは川がとても汚れていた時期があったと現地調査時に住民の話があったため、それが影響していると考えられる。

【質問4】「河川の管理について」

【質問4-1】では、表4に示す4つの項目について、(1)「毎日する」(2)「週に一回する」(3)「月に一回する」(4)「年に一回する」(5)「しない」の5段階で回答してもらった。それぞれの回答率を表4に示す。

表4 【質問4-1】川及び用水路掃除に関する回答率

	(%)					無回答	
	毎日	週に一回	月に一回	年に一回	しない		
柴北上	個人で川掃除をする	0.0	0.0	0.0	18.8	75.0	6.3
	自治会で川掃除をする	0.0	0.0	0.0	75.0	25.0	0.0
	個人で用水路掃除をする	0.0	0.0	12.5	12.5	56.3	18.8
	自治会で用水路掃除をする	0.0	0.0	0.0	75.0	18.8	6.3
黒松東	個人で川掃除をする	3.7	0.0	0.0	7.4	74.1	14.8
	自治会で川掃除をする	3.7	0.0	0.0	14.8	55.6	25.9
	個人で用水路掃除をする	0.0	0.0	0.0	22.2	63.0	14.8
	自治会で用水路掃除をする	3.7	0.0	0.0	25.9	40.7	29.6
黒松西	個人で川掃除をする	0.0	0.0	0.0	22.9	74.3	2.9
	自治会で川掃除をする	0.0	0.0	0.0	45.7	48.6	5.7
	個人で用水路掃除をする	0.0	0.0	5.7	17.1	62.9	14.3
	自治会で用水路掃除をする	0.0	0.0	0.0	65.7	20.0	14.3

川掃除や用水路掃除をしないという住民は多かったが、柴北上や黒松西に個人で掃除をする人が比較的多くみられた。

【質問4-2】では河畔林や河床内の草を伐採するかについて回答してもらった。伐採すると答えた割合を図8に示す。

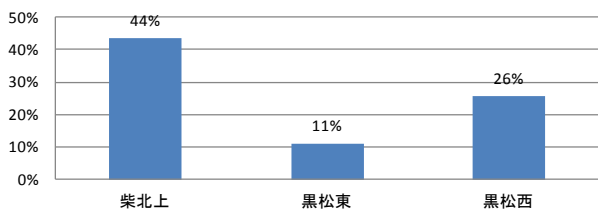


図8 【質問4-2】伐採すると答えた割合

伐採に関して注目してみると、柴北上が最も割合が高く黒松東が最も割合が低いことを示している。

【質問5】「住民の河川利用について」

【質問5-1】では、図9および図10に示す13項目についてそれぞれ「はい」または「いいえ」のどちらか1

つに記入してもらった。図9、図10では【質問5-1】に対するそれぞれの項目の「はい」の回答率をそれぞれ現在、過去に示している。

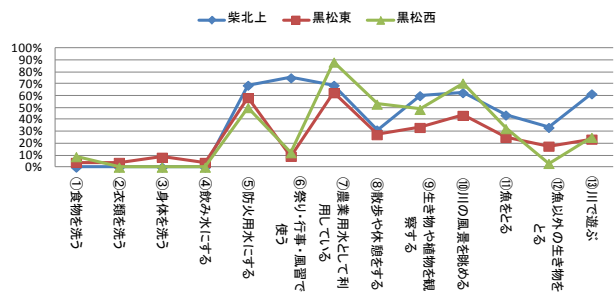


図9 【質問5-1】現在の利用の割合

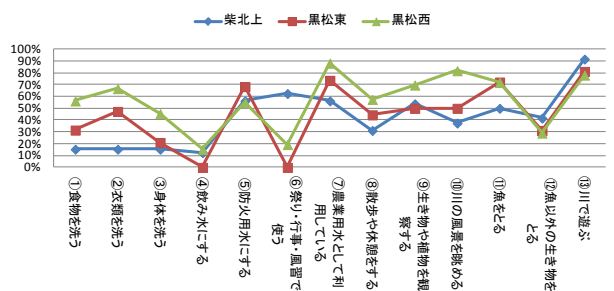


図10 【質問5-1】過去の利用の割合

「①食物を洗う」「②衣類を洗う」「③身体を洗う」に関しては現在では水道が整備され回答がなく参考にならないため過去について注目すると、柴北上の利用が全体的に低かったことがわかる。

現在、過去ともに「⑥祭り・行事・風習で利用する」では柴北上が高い割合を示しており、黒松西でも河川沿いで田植え体験等の行事はあるが、河川との直接的な関わりではなく、それに対し柴北上は水辺まで降りて行う精霊流しがあったためこのような結果になったと考えられる。【質問4-1】【質問4-2】において柴北上が高い割合を示していることも、このように行事が大きく関係しているためと考えられる。

現在における「⑧散歩や休憩をする」「⑨生き物や植物を観察する」「⑩川の風景を眺める」「⑪魚をとる」「⑬川で遊ぶ」といった項目では黒松東がほかの集落に比べると低くなっている。これは3集落の中で集落と河川間の距離が最も離れているためであると考えられる。

3. ヒアリング調査

3-1 ヒアリング調査の目的

ヒアリング調査では直接現地住民の話を聞き、実態

把握をさらに深めることを目的とする。

3-2 ヒアリング調査の概要

ヒアリング調査は、柴北上・黒松東・黒松西集落の住民に各集落から1人ずつ受けてもらった。ヒアリング対象者の属性を表5に示す。ヒアリングの方法としては事前に作成したアンケートをもとにヒアリングシートを作成し、これをもとにヒアリングを進める。さらに、川の利用空間を把握できるよう白地図を用意し、住民の方々から聞くことができたキーワード等を白地図に記入していく。

表5 ヒアリング対象者について

	集落	性別	年齢	居住年数	職業
Aさん	柴北上	男性	60代	60年以上	農業・林業従事者
Bさん	黒松東	男性	60代	31～40年	農業・林業従事者
Cさん	黒松西	男性	60代	60年以上	農業・林業従事者

AさんとCさんは60年以上集落に居住しており、昭和30年頃に行われた護岸工事以前の様子を聞くことができた。護岸工事前後の違いとして飲み水として利用しなくなった、川幅が狭くなった、川の水量が減った、水辺に降りる場所が減った、川の生物が極端に減ったことが挙げられた。

3-3 河川環境図を利用した空間の把握

1ページ目に示している図2、図3、図4はそれぞれの集落のヒアリング調査による内容とアンケートの【質問6】において航空写真に記入してもらった内容を河川環境図に記入したものである。

アンケートの【質問6】において航空写真に記入してもらった内容は以下のとおりである。

- ①過去のお気に入りの風景②現在のお気に入りの風景
- ③過去のお気に入りの場所④現在のお気に入りの場所
- ⑤過去利用していた遊び場⑥現在利用している遊び場
- ⑦過去の魚釣り（しかけ）場所⑧現在の魚釣り（しかけ）場所⑨その他（祭り・行事等）

柴北上ではお気に入りの風景や場所の箇所は少なく、回答が精霊流しも行われるアクセスポイントに多く集中していた。黒松東では景観的な箇所は少ないが魚釣りやしかけの場所が多く、現地調査を踏まえると川の淵が多く利用されていることがわかった。黒松西では

多種の回答の集まりが散らばっていることがわかった。

4. 考察・まとめ

今回対象としたすべての集落において川に愛着があり、川があつてよかつたという意識があることがわかったが、「川が自分にとって大切である」「河川環境が美しいと思う」「川に温かみを感じる」の評価があまり高くないことについては川を特別視せず、あつて当たり前という意識が強いと考えられる。

アクセス性が高いとされる黒松東や黒松西が食物や衣類、身体を洗うといった生活の利用が多いことがわかった。それらは住民がどこから川へアクセスするかが大きく関わっていると考えられる。アンケートとヒアリングを併せてみると、黒松東と黒松西には住民が川へアクセスできる場所が集落内に多くあり、柴北上には少ないことがわかった。河川環境図を利用した空間の把握によって水辺へ降りて遊んだりできる場所が柴北上では点で数ヶ所あるのに対し、黒松東と黒松西には点だけでなく区間でも数ヶ所あり、この2集落が、住民がアクセス性として接する距離が長いことがわかった。

アクセス性として見ていく中で、「食物を洗う」「衣類を洗う」「身体を洗う」だけでなく、「散歩や休憩をする」「魚をとる」「川で遊ぶ」等も黒松東や黒松西が柴北上を上回ると予想をしていたが、実際には柴北上がほかの2集落を上回る結果を示した。これは柴北上集落内に地域近辺で最も広く車が水辺へ降りられるアクセスポイントがあるためであると考えられる。

【参考文献】

- 1) 御手洗朋代, 古庄香織, 岩田和哉, 中西章敦, 佐藤誠治, 小林祐司, 姫野由香: 里川集落の空間的構造及び人と河川との関わり方 その1, 日本建築学会九州支部研究報告, 2012年3月第51・3号計画系 pp385-388
- 2) 御手洗朋代, 古庄香織, 岩田和哉, 中西章敦, 佐藤誠治, 小林祐司, 姫野由香: 里川集落の空間的構造及び人と河川との関わり方 その2, 日本建築学会九州支部研究報告, 2012年3月第51・3号計画系 pp389-392
- 3) 岩田和哉, 中西章敦, 佐藤誠治, 小林祐司: 里川の利用や里川に対する愛着度の実態に関する研究—里川集落の空間的構造及び人と河川との関わり方に関する研究その3—, 日本建築学会大会学術講演梗概集(東海), F-1分冊,
- 4) 「オルソ画像」, 国土交通省国土地理院, <http://portal.cyberjapan.jp/>

*1 大分大学工学部福祉環境工学科 学部生

*2 大分大学大学院工学研究科博士前期課程

*3 大分大学大学院工学研究科博士後期課程

*4 大分大学工学部福祉環境工学科・助教 博士(工学)

*5 大分大学工学部福祉環境工学科・准教授 博士(工学)

*6 大分大学工学部福祉環境工学科・教授 工学博士

*1 Undergraduate Student, Oita Univ.

*2 Graduate Student, Oita Univ.

*3 Graduate Student Doctor's Course, Oita Univ.

*4 Research Associate, Dept. of Architecture, Faculty of Eng, Oita Univ., Dr.Eng

*5 Associate Professor, Dept. of Architecture, Faculty of Eng, Oita Univ., Dr.Eng

*6 Professor, Dept. of Architecture, Faculty of Eng, Oita Univ., Dr.Eng